

稲作速報

第4号

発行 JA 金山 営農部

・田植え後の稲管理
・今年の「契約栽培米」
・春農情報他

寒暖差激しい春、田植え「平年並」

強風吹くも活着はまずまずの状況！

暖冬傾向で経過した3月から一転、4月に入り気温が低く、断続的に雨や雪が降り、なかなか田んぼに入れない状態が見受けられ、作業が全体的に遅れていたが4月下旬から天候がよくなり、春農作業は一気に進んだ。4月末から続く高温状態により、ヤケ苗等の発生は一部で発生したものの大きな影響は見られなかった。今年は朝晩と昼の寒暖差が大きく、昨年と比べると活着状況はまずまずで、引き続き初期生育の向上に努めていきたい。

今年の育苗状況としては、播種は「平年並」でスタートしたが、播種日の気温によってその後の発芽に差が付き、苗の生育に不揃いが見受けられた。前述のとおり急激な高温による「ヤケ苗」の発生は少なかつたが生育障害・停滞等の影響が見えられたほか、強風による「風痛み」も見られたが、全体的に見るとまずまずの生育状況となった。

田植えは、一番早い人(大又)で5/7より始まり、平坦・中山間部の盛期は5/10～13、山間部は5/18～24と見られ、個人差はあるものの全体的にはほぼ「平年並み」(平均5/18頃)の状況となっており、現在最終段階に入っている。気温が高い日々が続く、徐々に「ワキ」が見え始めている。初期生育を確保し今年こそ豊作にするために積極的に「水交換」や「田干し」等の対応をしたいところ。※裏面参照

田植え後の稲生育は、水管理中心で！

今後稲は、活着・葉令展開・分けつ発生と続く「同伸葉・同伸分けつ」。幸い天候は安定しつつあり、一部植傷み(苗葉枯れ)等も見られるものの、総体的にはまずまずな活着状態となっており、今後の管理次第で初期生育は左右される。ポイントはきめ細かな水管理による稲生育の確保である。また、ヒエ・雑草等の発生も早まっているので、除草剤散布は、遅れない様に対応しよう。

今年も、「全品種品質向上」と「安全・安心・安定した米づくり」。そして、「契約数量の確保」が最大目標である。当面は水管理を中心にあわせてずじじつくりと稲を育て、適期適正管理に努めて行こう。

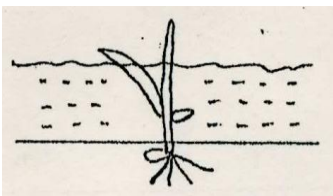
田植後の稲管理 (～6月前半) — やや深目の水管理と除草剤散布・防除 —

水管理

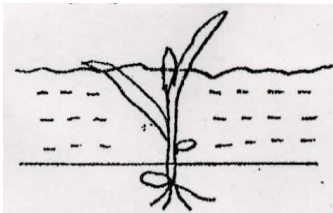
1、水管理は、稲生育中最も日常的作業であり、地水温、窒素発現、根の活力、除草効果、生育調節など、多様な影響をもつ重要な技術・管理である。(活着限界温度13℃)

2、やや深目の水管理—5～10cm 位とし、稲の生長(草丈)に合わせて、徐々に水深(尻水口)を上げていく管理。当面は、**最上葉(一番上の葉)が出る程度**としていく。

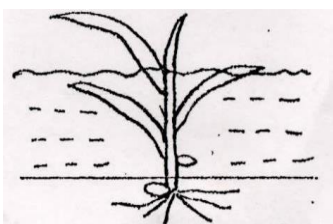
・ 田植え直後: 約5cm前後とし、葉先が出る程度



・ 活着後: 5～7cm 位で、最上葉節まで



・ 6月中旬以降: 7～10cm程度とする



・ 入水は、**田んぼを露出**(「へながあぶり」)させない管理で、「**日中止水・夜間かんがい**」が基本である。

除草剤散布

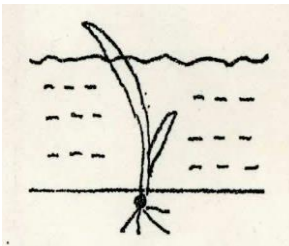
—今年も雑草の発生は「早い」状況！—

1、一発剤の散布時期(裏面参照)

・ 一番早いヒエの大きさに合わせた散布が基本で、**ヒエ1.5～2葉期(目安として田植え後5～7日)**とする。

但し代かき(荒代)の早い人程、**早めに散布(田植え後3～5日)**する。なお、ヒエの2葉は水面から出た状態となるので、まだ水から見えない内から早いヒエの見え始めまでとし、とにかく**遅れない様にする**。(すでに発生田もかなり見える)

・ 田んぼによっては、雑草(特にホタルイ、シズイ等)の早い田もあるので、**すべての一発剤は、発生始期の範囲内**(水から出ない)での散布とする。ヒエより早い田んぼもあるので**注意**。—特に早めの散布対応で！—



2、水管理—畦塗り・アゼベルト等で水持ち対策

一発剤は、一旦土壌吸着をして吸収するので、**①散布後3～4日はできるだけ水を動かさない**(どうしても水持の悪い田は、できるだけ深水して散布) **②ヒビが入るほどの田面露出**(へながあぶり)は**絶対させない**(除草剤の処理層は2、3日干しても消滅しない)。

3、残草対策

・ **ヒエだけ残ったとき**・ヒエクリーン剤中心での散布(6/中～部分散布も可能)。ヒエ専用剤で4葉まで。

・ **ヒエ+多年草雑草の両方**・ヒエ3葉・雑草草丈3～5cm位までは、**レプラス又はワイドショット等**(田植え後14日～)。それ以降は、**クインチャーパスME液剤等**の散布。

・ **多年生雑草**(シズイ・クグワイ等)だけの時・**バサグラン粒剤**又は液剤の散布(6/下～)次号(6/10予定)参照。

※近年、一部除草剤の効きが悪い**SU剤抵抗性雑草のイヌホタルイ等の発生**が目立ちます。また、**抵抗性「オモダカ」の発生も懸念**されています。**裏面に除草剤の特徴**を紹介しますので、自分の田んぼの前年雑草発生を把握し、適正な使用に努めて下さい。

病害虫防除

1、葉イモチ病

・ 最低気温が18℃になると発生してくると言われ、金山の平年日で、6月15～20日までが、刈ゼメートの散布時期となる。ただし、**箱処理剤(スタウトントツ・ブイゲットパディート等)の使用田は**いない。

・ 毎年発生源の多くは、補植苗からですので、

【補植苗は、早目に処分する!】

2、害虫防除

<イネミズゾウムシ>

・ 箱処理剤(パダン)は効かない)を使った人はいないが、発生量を見て、**トボン粒剤**の散布(1～2kg/10a)。

<カメムシ類>

・ 昨年も発生が多かった為、越冬頭数・卵も多いとも言われ、**すでに幼虫にて活動**し始めている。耕種的防除の第1歩は、**春からのこまめな草刈り**対応である。

その他

・ 施肥は6/下まで、基本的に必要なし!

(今年の乾土効果は、「平年並」と見込まれる)

令和元年契約栽培米の取扱い内容

	ミニストップ米	酒米	モチ米	つや姫	雪若丸
環境保全型米目標	慣行栽培米	ブランド栽培、特別栽培、慣行栽培	慣行栽培米	特別栽培米	独自生産工程管理
契約先(全て全農山形経由)	KK丸紅 (コンビエンスストア ミニストップ)	県酒造組合(主に出羽桜酒造) 県外酒造会社	越後製菓、餅中央軒煎餅他	全農ライフサポート	全農山形
契約品種及び数量	品種 数量 あきたこまち 2,500俵 はえぬき 21,000俵 合計 23,500俵	品種 数量 出羽燦々 10,000俵 美山錦他 3,000俵 合計 13,000俵	品種 数量 ヒメノモチ 3,500俵 (加工用ヒメノモチを含む) 合計 3,500俵	品種 数量 つや姫 5,000俵 合計 5,000俵	品種 数量 雪若丸 7,000俵 合計 7,000俵
栽培基準及び品質基準	・環境保全に配慮した米づくりを基本とし、減農薬栽培化も目指した契約栽培として取り組むものの、数量確保が最大の目標である。 ・品質基準と食味値が2大基準となり、「1等米」指定とする。 ※土づくり肥料は標準使用。	・「ブランド出羽燦々」は、品質目標・栽培基準に基づいた「GAP認証」+「シラカント」による「ブランド米」5,000俵に取組む。 ・出羽燦々900俵は、特別栽培米(減農薬減化学肥料栽培)とする。 ・2等米以上とし、1等米比95%目標として品質向上に努める。 ・出羽燦々、雪女神の網目は基本的には2.1mm 美山錦、出羽の網目は2.0mm以上で統一。 ※品質目標: タンパク 7.5%以下 千粒重 25.5g 心白発現 30% ※栽培基準(別紙) ※認証基準: GAP認証(出羽燦々)	・慣行栽培による品質を重視した数量確保が最大の目標である。 ・2等米以上とする。 ・ウル混入防止対策として、清掃の徹底と適正乾燥によるハゼ発生向上に努める。	・山形つや姫ブランド化戦略推進本部の定める、「栽培マニュアル」「出荷基準」に基づき、最上地区統一の特別栽培米基準(下記参照)として取組む。 ・2等米以上の適合とし、1等米比90%以上を目標とする。 ※品質基準 ・玄米粗タンパク質含有率: 6.4%以下(水分15%換算) ※特別栽培基準 ○減農薬基準 10成分(別紙) ○減化学肥料基準(10a当り) ・元肥 つや姫特栽培基肥30*40kg ・追肥 つや姫特栽培追肥NK15kg ※土づくり肥料は標準使用。	・独自生産工程管理による栽培と2等米以上とする。 ・1等米比90%以上を目標とする。 ※品質基準 ・玄米粗タンパク質含有率: 5.7~6.4%程度 ・選別網目1.90mm以上とする。 ※土づくり肥料は標準使用。
推進上の留意点	・環境保全型農業を推進・拡大させるため、自然環境にやさしい栽培と技術の向上に努め、安定生産販売を進める。 ・また、品質・食味重視での契約栽培米として、安定生産販売体制を確立していく。	・品質向上と良質米生産を基本に、「GAP認証」を組合せた「出羽燦々」ブランド栽培に取り組む、更なる酒米産地確立を目指す。 ・特別栽培米は、やまがた農業支援センター認証申請とし、ほ場審査の対象とする。 ・1等米比の向上のため、適正生育、適正収量の栽培に努めていく。	・契約先要請に伴う、モチ米の生産確保に取組む。 ・全農指定団体による安定生産販売の確立と契約強化としての播種前契約も検討していく。 ・昨年度より加工用ヒメノモチの取扱いを開始。今後も拡大を検討中。	・山形県「つや姫」生産者認定制度実施要領に基づく、生産者認定による認定面積での取組む。 ・「つや姫」生産者認定委員会最上地域部会の定める、振興方法等に基づいた推進とする。 ・食味重視での契約栽培米として、安定生産販売体制を確立していく。	・山形県「雪若丸」生産者組織登録実施要領に基づく、生産者組織登録による取組む。 ・「雪若丸」生産者組織登録委員会最上地域部会の定める、振興方法等に基づいた推進とする。 ・食味重視での契約栽培米として、安定生産販売体制を確立していく。

- OR1. 重点課題**
- 1) 金山ブランド米の推進・・・GAP認証等、新たな米づくりの推進と契約栽培米の強化。
 - 2) 環境保全型米の推進・・・栽培体系の強化とこだわり米拡大等(1等米比95%目標)。
 - 3) 地域稲作の推進・・・備蓄用米・加工用米・飼料用米の継続と稲作作業受委託の推進。

＜組織機構図＞

金山農協稲作推進協議会



変化する米情勢を学び、金山稲作の確立と向上を目指し開催された「契約栽培米推進大会」(4/17)が、40名参加のもと承認されました。今年度の契約栽培米の取扱い内容は、左表の通りとなります。

尚、金山農協稲作推進協議会(会長 柿崎公一、会員 320名)の総会も行われ、6部会(研究会)等の事業活動・決算予算が承認されました。

今年の「契約栽培米推進」内容

＜水稲除草剤ガイド＞

類型	品名	成分名	10a当り使用量	特長及び使用特性	当用価格(税込)
一発剤	ビクトリーZ フロアブル	ピラクロニル プロピリスルフロ	500ml 2ℓ	田植後5日～ヒエ3.0葉期の散布。SU抵抗性雑草(ホタルイ等)とオモダカにも有効の1発剤。フロアブルによる手散布。	3,200円 12,050円
	ビクトリーZ シャンホ	ピラクロニル プロピリスルフロ	400g (10ℓパック)	田植後5日～ヒエ3.0葉期散布。SU抵抗性雑草全てとオモダカにも有効の1発剤。	3,330円
	キマリテ フロアブル	イプフェンカルボン テフリルトリオン	500ml 2ℓ	田植後直後～ヒエ3.0葉期までとし、SU抵抗性雑草に加え、1年生雑草から多年生雑草まで幅広く使える1発剤。	3,150円 11,650円
	ベンケイ豆つぶ	ピリミスルファン フェノキサスルホン ペンソピシクロン	250g 2.5kg	田植後3日～ヒエ2.5葉期までで、ノビエに対する効果が高く、長期発生を抑える。SU抵抗性雑草(ホタルイ等)にも高い効果。	3,450円 31,800円
	ハッチリLX粒剤	ピラクロニル オキサジクロメホン イマソスルフロ フロモフチド	1kg 10kg	田植後直後～ヒエ2.5葉期で散布。4成分により有効性と長期有効性を表現。ノビエ、SU抵抗性雑草の他、多年生雑草にも高い効果。田植後同時でも使える。	3,220円 29,850円
	ビクトリーZ粒剤	ピラクロニル プロピリスルフロ	1kg 10kg	田植後直後～ヒエ3.0葉期の対応。SU抵抗性雑草全て(ホタルイ等)とオモダカにも有効のALS阻害剤配合1発剤。	3,100円 28,560円
	キマリテ粒剤	イプフェンカルボン テフリルトリオン	1kg 10kg	田植後直後～ヒエ3.0葉期までとし、SU抵抗性雑草に高い効果。1年生雑草から多年生雑草まで幅広く使える。2成分で特別栽培にも対応。	3,090円 28,590円
中後期剤	ヒエクリーン粒・豆つぶ	ヒミノバックメチル	1kg 250g	ヒエ発生前～4葉(田植後15日～)。持続効果の高いヒエ専用剤。	1,760円 1,930円
	サーハックスDX粒剤	シハロホップブチル シメトリン ペンプレセート MCPB	1kg	ヒエ3.0葉+全雑草(播5葉期以降)(SU抵抗性・多年生雑草中心、ツクシ3cm・クワイ初期)	1,970円
	マメツトSM粒剤	モリネート シメトリン MCPB	1kg	ヒエ3.5葉+全雑草(播5葉期以降)(SU抵抗性・1年生雑草中心、ツクシ3cm・クワイ他)	2,060円
	レプラス粒剤	ジメタメトリン ダイムロン テフリルトリオン メタソスルフロ	1kg 10kg	ヒエ4葉期+全雑草に効果に効果。(田植後14日～)ノビエ、ホタルイ、クワイ、等の残りやすい雑草に強い。	3,480円 31,870円
後期剤	ハツクラン粒・液	ベンタゾンナトリウム	3kg 500ml	広葉雑草専用(晴天時に使用)	2,860円 1,820円
	クリンチャーEW・粒剤	シハロホップブチル	100ml 1～1.5kg	ヒエ専用除草剤(ヒエ6葉期まで) ノビエ(ヒエ4葉期～5葉期まで)	1,840円 1,440円
	クリンチャーハースME液	シハロホップブチル ベンタゾンナトリウム	1,000ml (2本)	ヒエ5葉(クリンチャー)と多年生雑草(ハツクラン)の同時処理	1本 1,780円

一 除草剤情報

今、一発除草剤はたくさんの品目が出ているが、基本的には有効成分の組合せで商品名が変わってくる。年特中心で紹介。

◎SU剤抵抗性雑草対策

- ・SU抵抗性のホタルイ+アゼナ発生田には…ハッチリLX、ビクトリーZ、キマリテ、コメット、ベンケイ
- ・SU抵抗性オモダカには…ビクトリーZ、ハッチリLX、キマリテ、コメット

＜留意事項＞

- ・一発剤の殺草作用は、タンパク合成阻害にて枯れる仕組みなので、散布後7～10日たないと効果が見えにくい。
- ・フロアブル・豆つぶ・シャンホ剤は水中拡散剤で、水がないと広がらないので散布時はやや深水をする。また、強風時やカナがあると片寄りやすいので注意する。
- ・薬剤登録の使用基準は、田植後7日目の代かき設定となっているので、現実的には一発剤は少し早めでの使用とする。

一 稲作用語講座 Vol.2

今回の稲作用語講座は“田植え・6月上旬の稲管理編”として、ここ2年ほど初期生育の“最大の敵”となっている「土壌還元(ワキ)」についてです。

一 土壌還元(ワキ) 一

代掻きや田植え後に気温が高くなると、前作の稲ワラや堆肥、鶏フンなどの有機物の分解が急激に進みます。これにより硫化水素の発生や有機酸などの有害物質が生成され、稲の生育を阻害します。ここ数年、4月末から5月いっぱい気温高い日が続き、田んぼが「ワキ」やすい状況になっており、その影響で根の活着が遅れ、初期生育が悪くなり、茎数確保ができないケースが多く見られています。

すでに「ワキ」のサインである気泡が見える田んぼが増えていきますので、天気の良い日には思い切って1～2日水を落とす「田干し」がおススメです。その他「水交換」などの対応方法もありますので、お気軽に相談ください。

～ 次回は“中干し、防除・除草編”の予定です ～

一 転作情報

R1. 備蓄米、加工米、飼料用米への取組

- 備蓄米・・・生産者212名、数量12,000俵の出荷申込状況。
- 加工米・・・生産者6名、数量694俵の出荷申込状況。
- ※備蓄米・加工用米ともに「米出荷契約書」の中での契約となります。

- 飼料用米・・・生産者38名、面積約77ha、の栽培申込み。飼料用米研究会を中心とした栽培体制とし、出荷販売契約は「飼料用米売買契約書」並びに「区管理計画書・自家用種子申請書」の提出となります。